

# 謎多き、丹後国分寺

## 国分寺とは・・・？

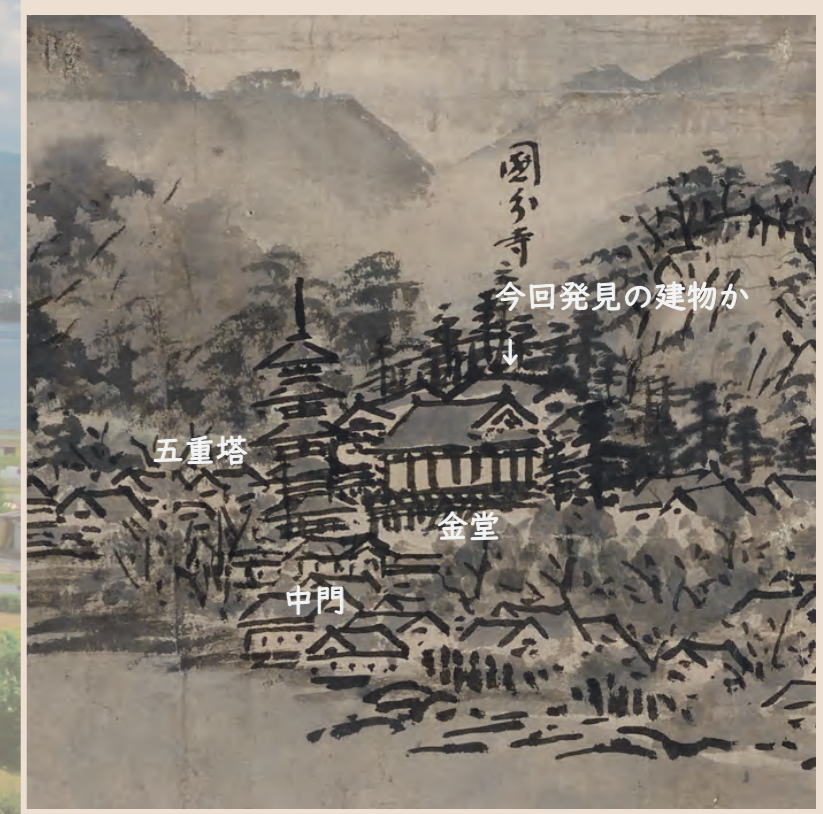
741（天平13）年2月、聖武天皇は全国に国分寺を建立し、仏法により国を治めようとなりました。丹後国分寺が、当初どこに造られたのかは諸説ありますが、現在の国分寺付近が有力な候補です。

## 中世の丹後国分寺

奈良時代に造られた丹後国分寺は一度は衰退しますが、室町時代の初めに再興されました。現在残されている礎石は、その建物の痕跡です。中世の丹後国分寺は雪舟の絵にも描かれるように、大規模な寺院だったようです。

## その後の国分寺

江戸時代に洪水の被害を受け、現在では塔と金堂の礎石だけが残されるのみです。これまで発掘調査が行われておらず、当時の姿については謎に包まれていました。京都府教育委員会では、令和3年度から国分寺の実態を解明するための発掘調査を開始しました。



1、国宝「天橋立図」（部分）（ColBase から引用・加筆）

「国分寺」の書き込みの下に金堂、五重塔、中門が描かれ、現存する礎石に該当する建物がみられます。金堂の脇には現在痕跡がない建物が3棟描かれています。

# 国史跡

# 丹後国分寺跡

# 第3次調査 現地説明会資料

## ～1200年間のあゆみ～

### 天平13（741）年

聖武天皇が「国分寺建立の詔」を発する。全国の「好処」に七重塔を造り、經典を納めさせる。

### 天平勝宝8（756）年

6月10日 翌年の聖武天皇の一周忌に間に合うよう、国分寺建設工事を急ぐように命ずる。  
12月20日 丹後を含む26ヶ国に一周忌に使う道具を配布する。（この時、丹後国分寺は完成に近い状態であった可能性が高い）【続日本紀】

10世紀までには寺は荒廃か

### 嘉暦元（1326）年

大和西大寺の律僧・宣基上人が衰退した丹後国分寺を憂い、諸国を巡って資金を集め、国分寺の再建に取り掛かる。

### 建武元（1334）年 4月7～9日

金堂の完成式典が行われ、大和や丹後国内から多くの僧侶を集める。【丹後国分寺再興縁起】

### 文亀元（1501）年頃

雪舟が宮津を訪れ、「天橋立図」を描く。

### 永正4（1507）年 5月5日

一色義有と細川政元・武田元信が対立した大規模な戦乱が起こり中野・大垣を中心とする地区が焼亡する。（国分寺が罹災したかは不明。）【妙立寺髹漆厨子】

### 天文11（1542）年 6月27日

府中の兵乱によって炎上し、悉く田地となる。【当寺伽藍荒廃之覚】

### 天和3（1683）年

国分寺一山が洪水によって破損する。「本堂」「口重塔」「護摩堂」「鎮守」「天王」「梵鐘四尺五寸」「国分寺」「長良坊」が被災。【記録覚】のち、現在の国分寺の寺地で再興される。

### 昭和5（1930）年

丹後国分寺跡が国史跡に指定される。

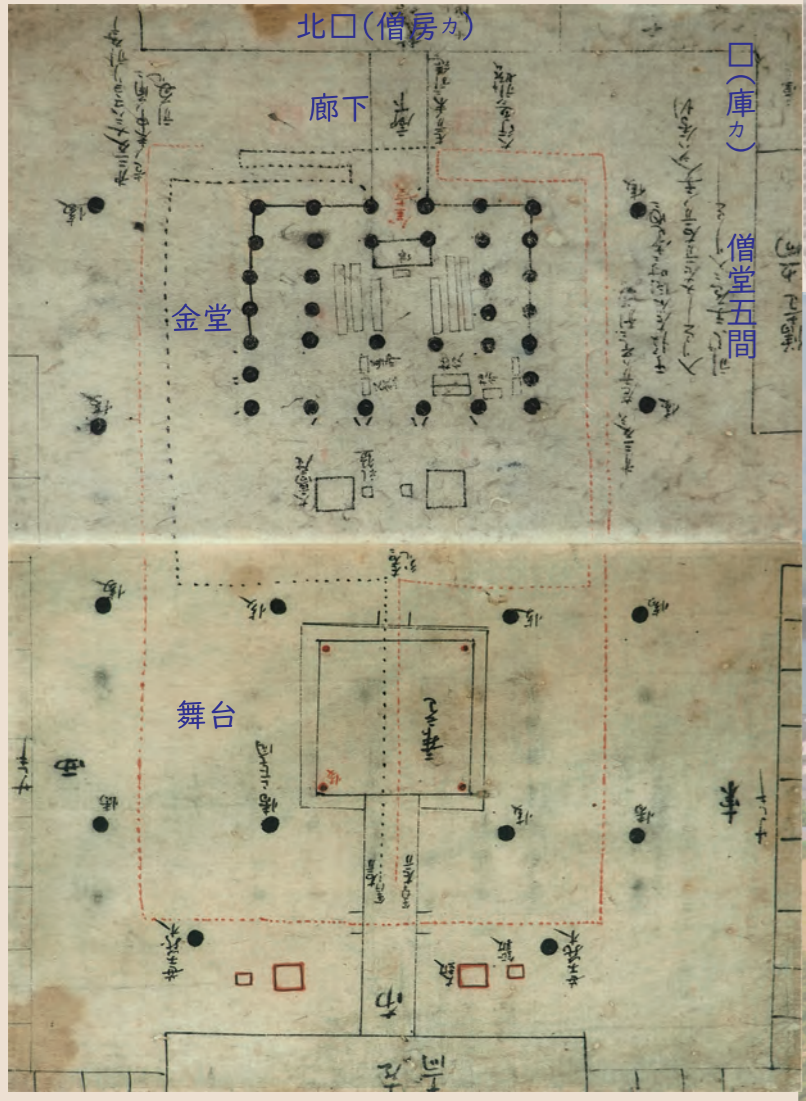
作成：京都府教育庁指導部文化財保護課  
（京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町）  
Tel：075-414-5903  
発行日：令和5年11月11日

写真上：資料館ができた当時（1969年） 写真下：現在（2020年）



## 2、現地に残された金堂の礎石（令和3年度の調査）

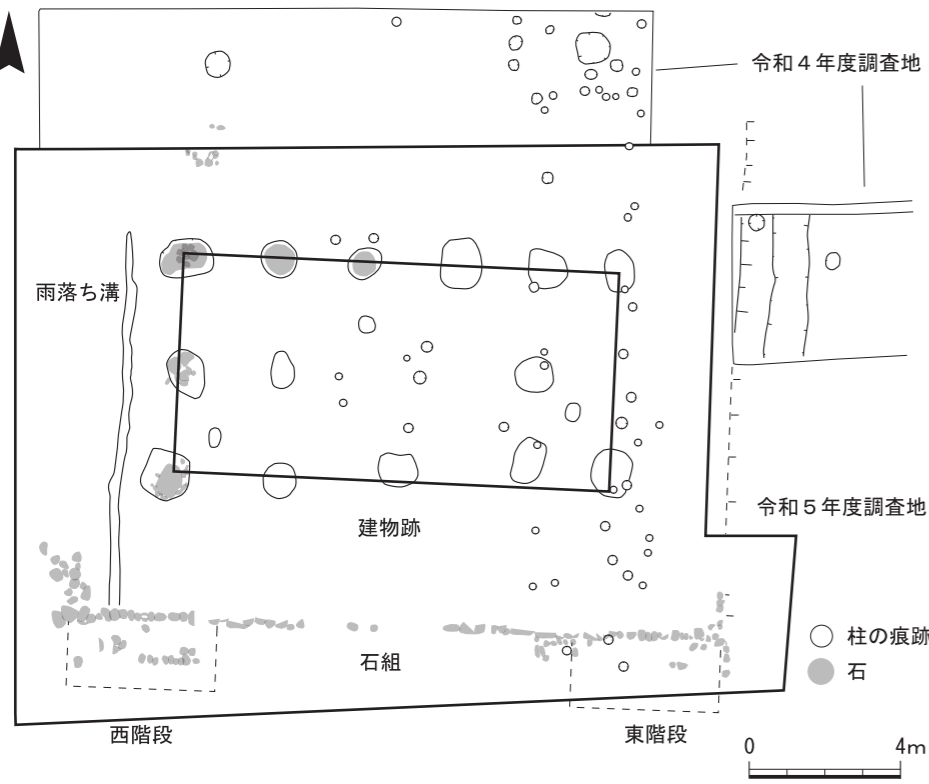
礎石の配置は下の指図とほぼ一致します。令和3年度の調査で、基壇は平安時代以降に造られたことが明らかとなりました。



## 3、『丹後国分寺再興縁起』指図（上が北）

建武元（1334）年に金堂落成式典が行われました。当日の列席者名、次第、各人の役割、持物、着座場所などが詳しく記された記録が残されています。

# 今回の調査成果



4、今回の調査で見つかった遺構（1/200）

## 雪舟が描いた国分寺の姿？



6、建物が見つかった様子

今回見つかった建物は、地表に痕跡を残していない未知の建物でした。東西4間（11.5m）、南北2間（5.8m）の規模です。柱基礎の石は5石残っていましたが、他のものは抜き取られています。残された石のひとつは、長さ1m以上ある巨大なものです。出土した土器の年代から室町時代の建物と推測しています。建物の3方向が石組みで囲まれており、石組の東西幅は17.4mです。南東隅、南西隅の2箇所には階段が見つかりました。



7、石組と西階段



8、巨大な建物基礎の石



5、現在の丹後国分寺跡（南から撮影）

現在は、中門・金堂・五重塔の礎石が現地に残っています。江戸時代の洪水で、寺の本堂は現在の高台に移転しました。



9、新発見の古代瓦

## 古代国分寺が見えてきた！

建物の北側では、古代（奈良・平安時代）の瓦が大量に見つかりました。室町時代に、古代の瓦を再利用したのでしょうか。

この近くには未発見の古代の瓦葺き建物があったと考えられます。当時、瓦は役所や寺院などでしか使われないので、古代の寺院（国分寺か）が近辺に存在した可能性が高くなりました。

## まとめ

今回見つかった建物は、丹後国分寺跡の発掘調査で見つかった建物としては初めての事例です。建物の用途は正確には分かりませんが、中世に再建された僧房（僧侶が生活する建物）の可能性があり、建物の位置関係から、雪舟が描いた建物のひとつと考えられます。

これまで、中世丹後国分寺は残された絵図や文献史料から当時の姿を想像するしかありませんでしたが、より具体的な姿がみえてきました。

また、古代の建物は見つかりませんでした。奈良・平安時代の瓦が大量に出土していることから、近い将来、この周辺で古代の国分寺に関する建物が見つかるかもしれません。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。